

R2年度 市長と教育委員との「総合教育会議」

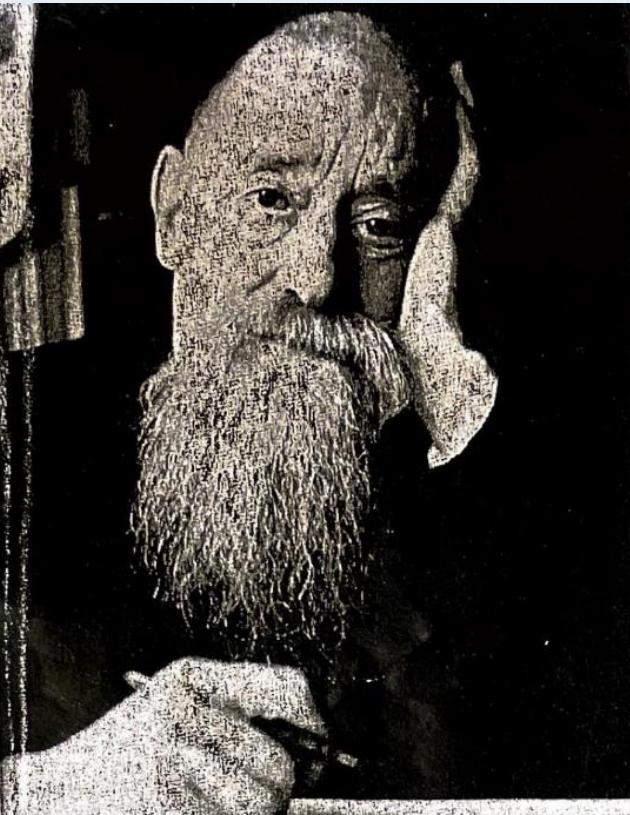
「故郷清瀬を誇りとし持続発展の主体者となる力」を育むために



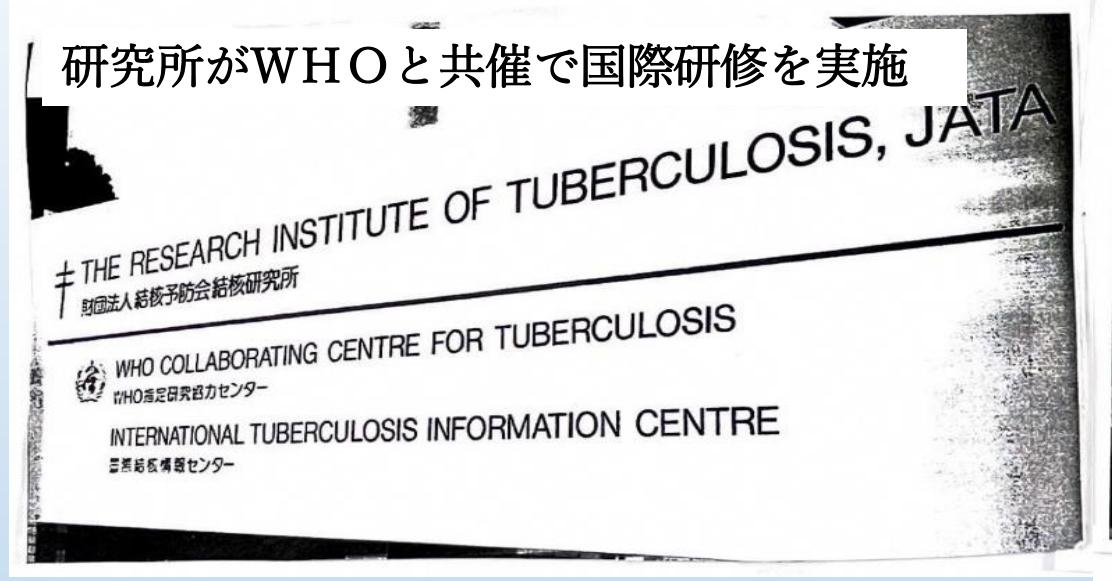
令和3年2月18日(木)

清瀬市教育委員会

清瀬の歴史は我が国そして世界を結核から救った歴史でもある



ヨゼフフロジャック神父



～将来的な世界遺産登録を視野に～
市と学校法人北里研究所・公益財団法人結核予防会が
個別連携協定を締結しました



学校法人北里研究所
理事長 小林弘祐氏



公益財団法人結核予防会
理事長 工藤翔二氏

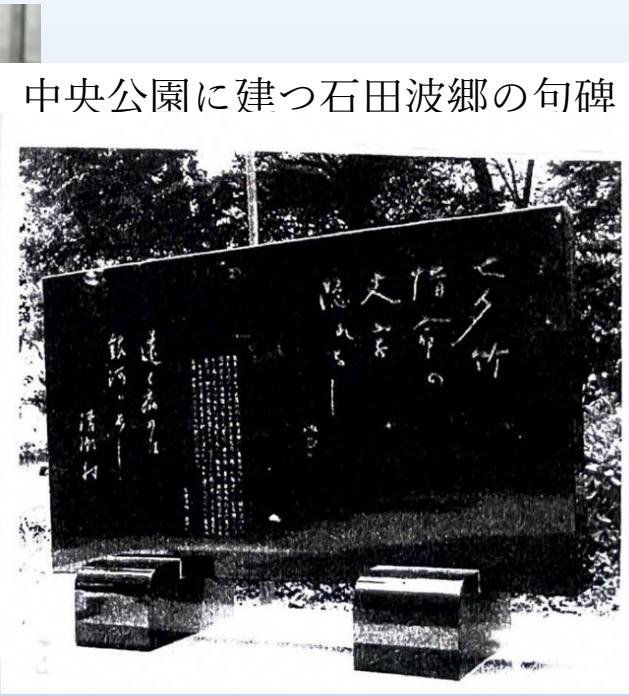
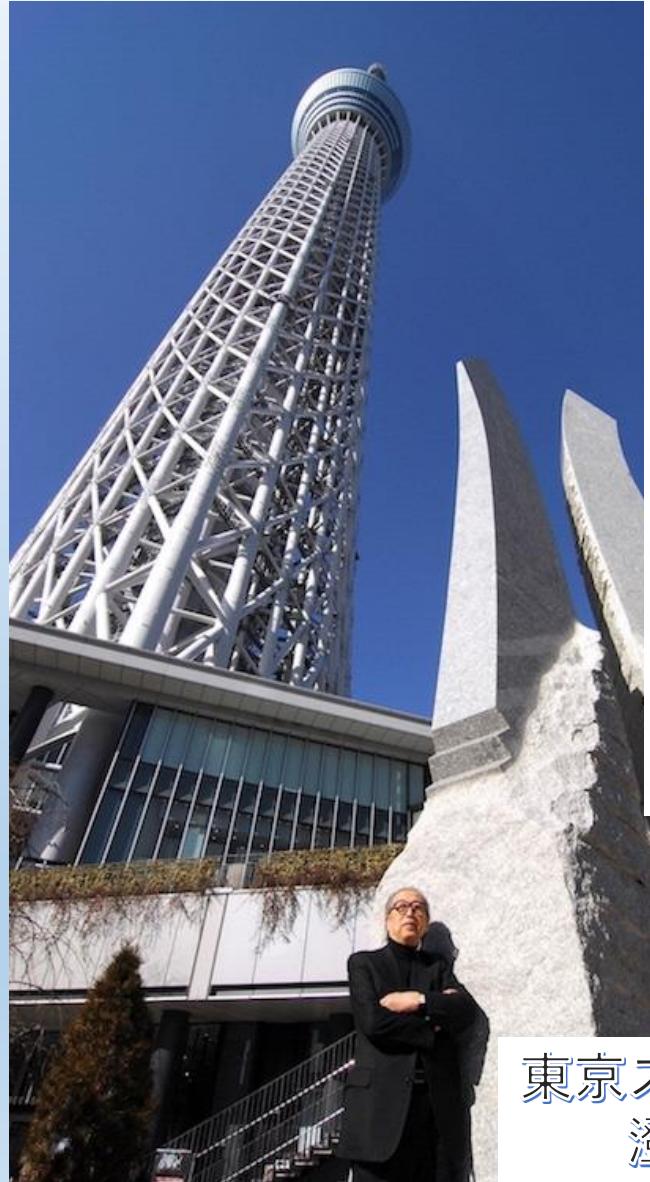


研究所での国際研修



第六代所長 島尾忠男氏

清瀬は我が国のみならず世界に冠たる技術や文化を輩出する自治体である



エディブルフラワー(食用花)で
業界をリードする横山直樹氏



気象衛星センター



救世軍清瀬病院 The Salvation Army Kiyose Hospital



医療のまち清瀬



問題提起

子供たちの多くは
自分が生まれ育った清瀬が
これほどまで貴い自治体であることを
十分理解していないのではないか？



「誇り」「愛情」を培うまでに至っていないのではないか？

なぜ私たち教育委員会は「清瀬を知り愛する教育」
が今こそ必要と考えるのか？

これからの世の中は 国際化がますます進み

世界中のとかかわりながら生きていく時代



だからこそ

「自分は何者なのか」 「自分の立ち位置はどこなのか」

すなわち 「確固たる自分」を持たねばならない時代

自分はどこで生まれ どこで どんな環境で
育って（育てられて）きたのかを知ること

これからの世の中は 人工知能が人間に代わって 仕事をしたり
判断したり 教えたりする時代



だからこそ

「思いやり」「優しさ」「愛」「感動」等の
「人にしか持てない心」が一層大切にされる時代

自分はどんな人たちから どんな支援を受け どんな愛を注がれながら育ってきたのかを知ること

そして何よりも…



清瀬市のトップである渋谷金太郎市長は
常々 清瀬が誇り高きまちであることを訴えている

である限りは

清瀬市教育委員会は「学習指導要領」の具現化と共に
「教育」という窓口から 市長の想いを実現していく
ことがミッションである

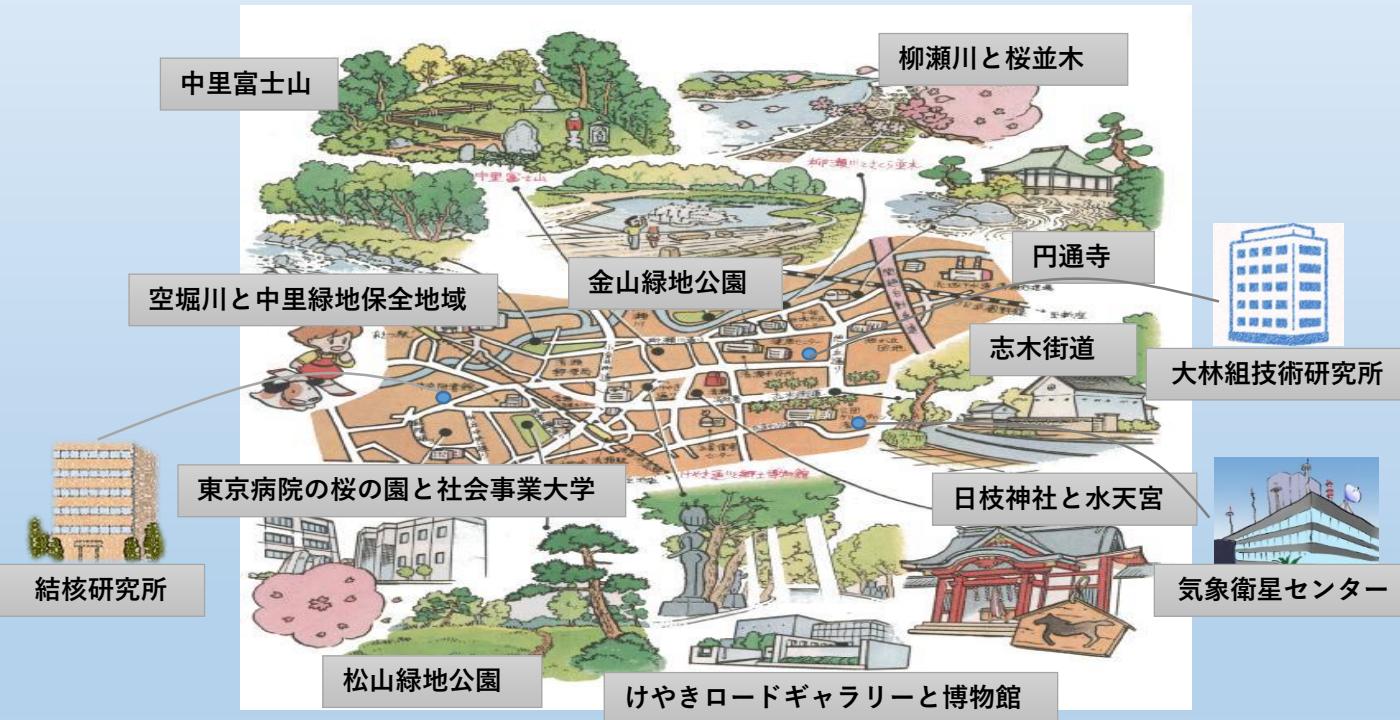
清瀬市では学校教育を通して
以下四つの「資質」や「能力」を
全ての子どもたちに育むこととし
取り組んできました

清瀬市の学校教育が育むべき四つの「資質・能力」



子供たちが「故郷清瀬を誇りとし持続発展の主体者」となるための

ローカル教育（清瀬学）の充実 を図る



清瀬の道徳（独自開発教材）

清瀬の道徳



- 一 くろくわ和尚（円福寺に伝わる昔話）
- 二 あつたかいな（二シジン）
- 三 火の花祭り
- 四 僕の好きな場所（柳瀬川）
- 五 さん さん さん（社会福祉大学）
- 六 力タクリまつり（力タクリまつり）
- 七 お母さんが風邪をひいた
- 八 我がまちを奏でるオーケストラ
(結核研究所)
(清瀬市民管弦楽団)
- 九 オオムラサキの棲む清瀬を目指して
(オオムラサキ)

「清瀬学」① 市独自の道徳資料で学ぶ

- 十 彫刻家「澄川喜一」

清瀬の道徳 「彫刻家

立川 喜一

終戦直後の昭和二十年九月、十四歳の時だった。夕暮れのさわやかな風に誘われて、私は下宿先からその散歩に出かけた。空襲の恐怖から解放され、生活には穏やかさが取り戻され始めていた。そのような中で見た木造の橋は余計に私の脳裏に焼き付いた。以来、私は毎日のように写生に出向いた。その橋は山口県岩国市にある日本三名橋の一つ錦帶橋（きんたいきょう）である。

私は十三歳で旧制の岩国工業学校の機械科に入学した。生まれは島根県の山村だが山口県との県境に近く、通学には岩国市の学校が通学に便利だった。幸いにも学校の近くには親類がいた。そこに下宿することができた。

工業学校で製図などを勉強をうちに、その橋の構造の美しさにどんどん引き込まれていった。下宿先から橋までは五百メートルほど。夏には橋のたもとで泳ぐなど、ほぼ毎日橋を歩いていた。裸足で橋を歩いていると、わずかに揺れる錦帶橋に「木は生きていた」と感じ、木の「よさと反（そ）りや起（むく）りのある造形美に私は魅了された。

「反りと起りは同じ。要するに刀を横にして上にすると起りで、下にすると反り。京都の寺でも柱（はしら）が膨らんでいて、それが起りで温かい印象を与える。」いつか木を使つて形を表現したいと思うようになっていた。

工業学校を卒業する半年ほど前に「彫刻（彫り）」をめに東京芸術大学に進学したい」と打ち明けた。しかし、一般的の会員には私の話に耳をかすどころか、「私をばげしく叱（の）ぶ」と思はれていた父はまらず、とても許しをもらうことはできなかつた。まつて父は「何が彫刻家だ。食えるわけがないだろう。」と言つていた。

泣く泣く地元の製紙会社に勤めることを決めた。湿気の多い工場で汗水流して紙づくりに励んだが「いつか彫刻を学びたい」という思いが日に日に増すばかりだった。入社して半年たところ、私は製紙会社を退職する決意を固めた。

家出を覚悟し、「やはり東京（大）を受験したい」と、数日間、必死に父親を説得した。するとその熱意は「一回だけならいい。落ちたらまた地元で働け」と許しを得ることができた。上京の朝、仏壇に手を合わせる祖母の姿が見えた。聞こえてきたのは「対に受からないように」という言葉だった。幸運にも、錦帶橋の写生な院を磨き得意だったデッサンが受験科目になつていて、私は念願だった東京芸術大学に一発で合格することができた。

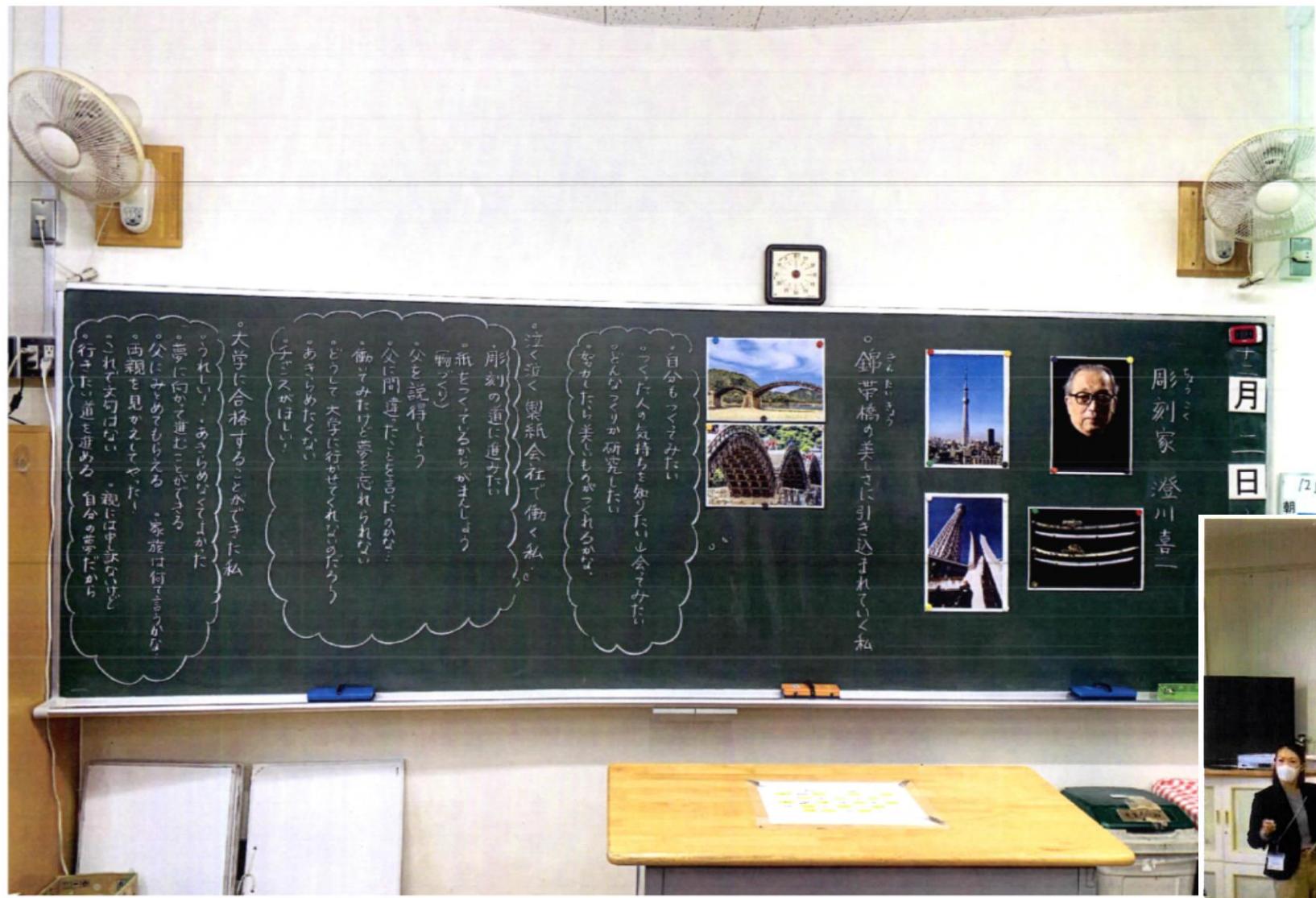
教育委員会HPに資料が掲載されます

本市名誉市民である澄川喜一氏が
令和2年度**文化勲章受章**の栄に浴されました



本市小中学校ではお祝いの気持ちを込めて
澄川先生の生き方から学ぶ**道徳授業**に取り組みました

生き方



澄川先生から
多くを学んだ清瀬の子供たち

伝統文化



お父さんとかお祖母ちゃんとかに反対されても、夢をあきらめないのがすごいなと思いました

今日の道徳を通して、私はこの清瀬に住んでいることがとても誇らしく思いました。

私も努力をすれば澄川さんのようになれると信じて、いつまでも夢を追いかけたいと思いました。ありがとうございました。

スカイツリーをデザインした人が清瀬にいると思うとうれしいです。自慢したいと思います。

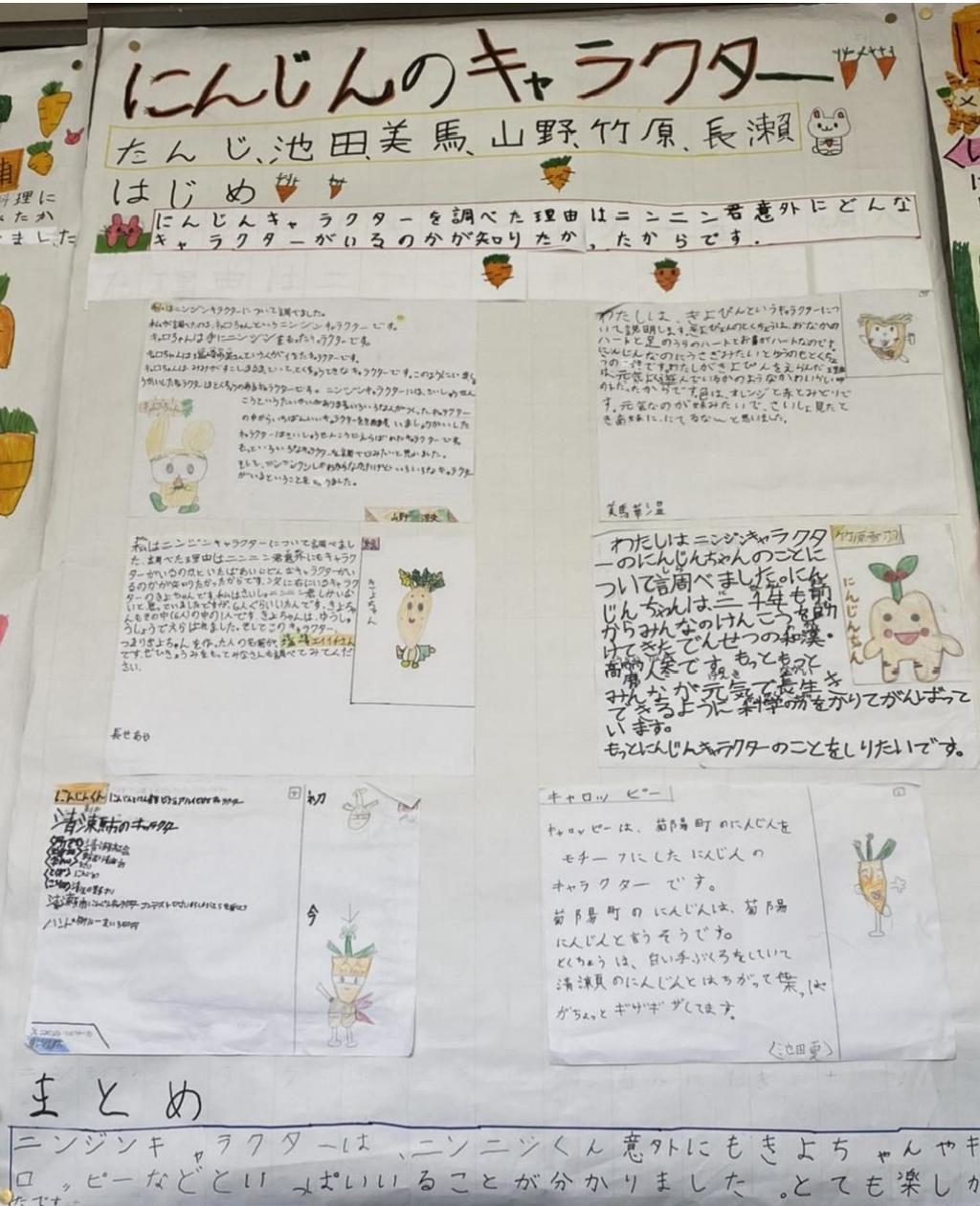
私も一度だけ錦帯橋に行ったことがあります。ここがスカイツリーのアイデアが出たところなんだと思うと、錦帯橋にもスカイツリーにももう一度行きたいなりました。

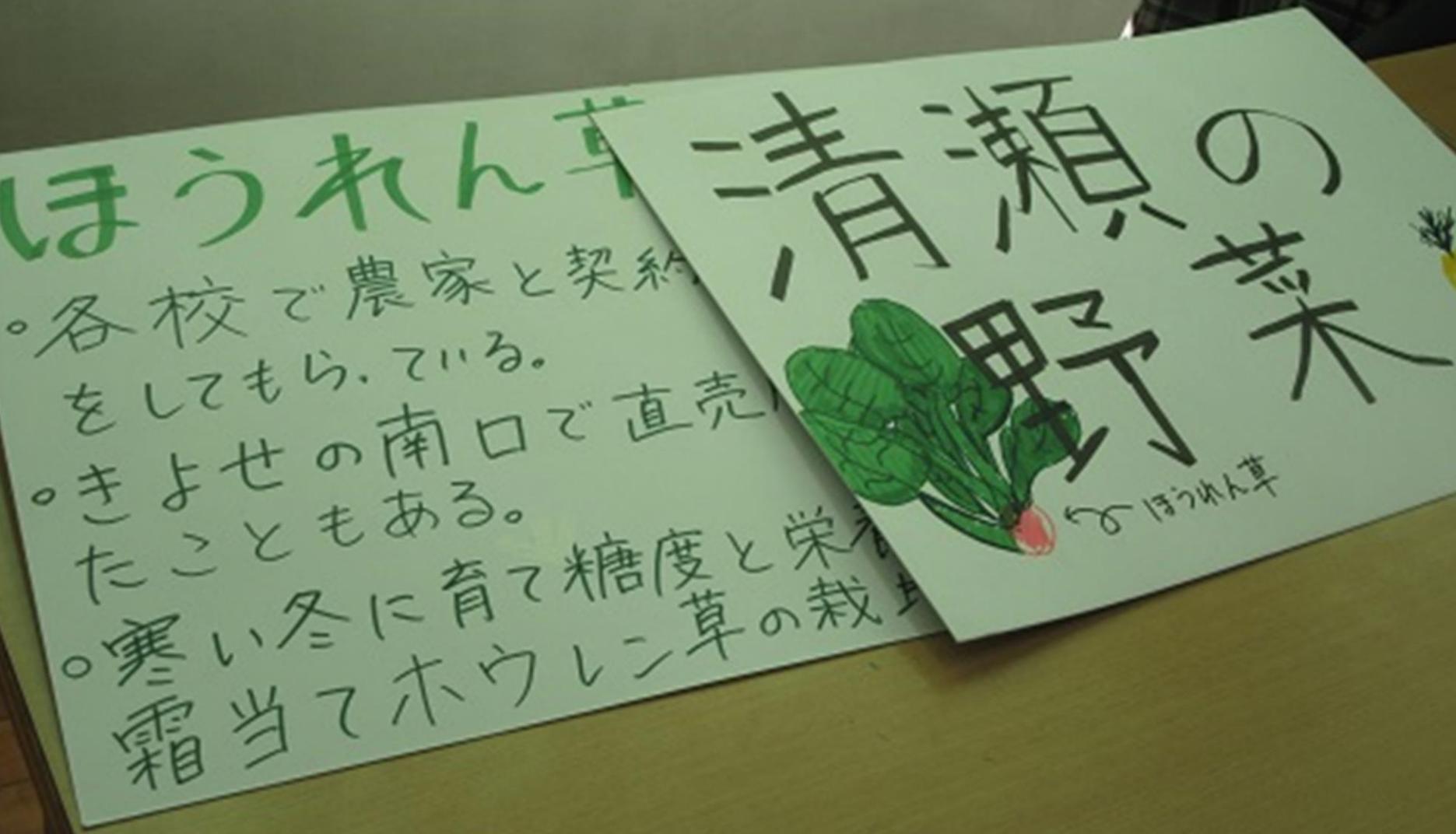


「清瀬学」② 社会科の学習を通して学ぶ



発表する清瀬小の子供たち





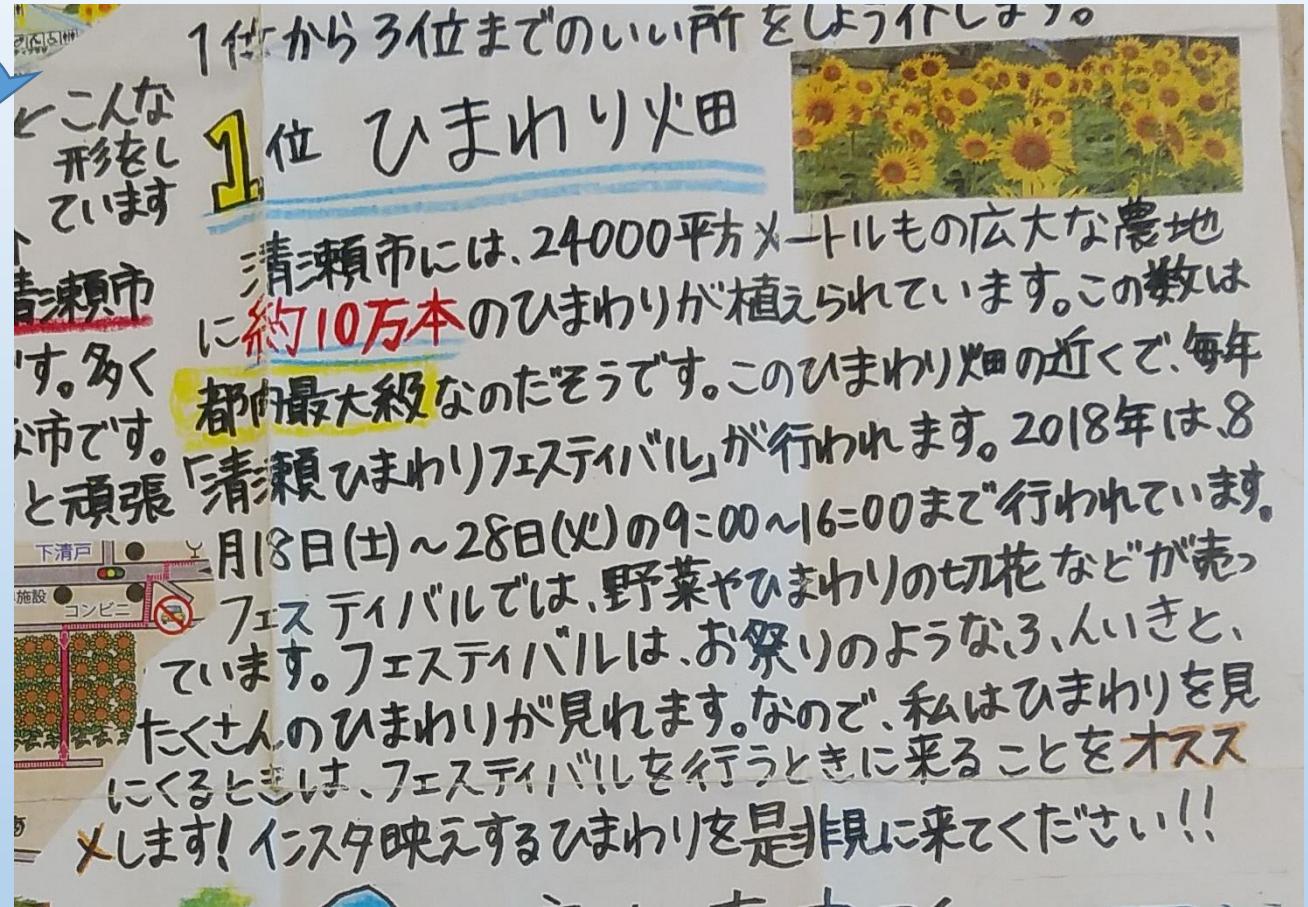
『清瀬学』③ 音楽(清瀬賛歌)から学ぶ



「武蔵野の面影のこす 赤松の森を歩けば 人の世の濁りも消えて やさしさがこの身を包む 絵のまち 情のまち 好きだよ清瀬」と歌うのは4年生。清瀬賛歌の練習です。区や市にはそれぞれ自分の自治体の歌がありますが、清瀬には「清瀬賛歌」があります。4年生と5年生は、この歌の練習を始めました。まずは歌詞を覚えてという段階です。来年は七小の創立50周年記念式典があり、この場で歌う歌の練習を始めたということです。平成9年(1997年)に作られたそうで、作詞も作曲も著名な方です。

第七小 ホームページより

「清瀬学」④ 社会教育の窓口から主体的に学ぶ



R1私の体験主張発表会学習発表の部入賞作品
清瀬第二中学校 篠塚菜奈さん

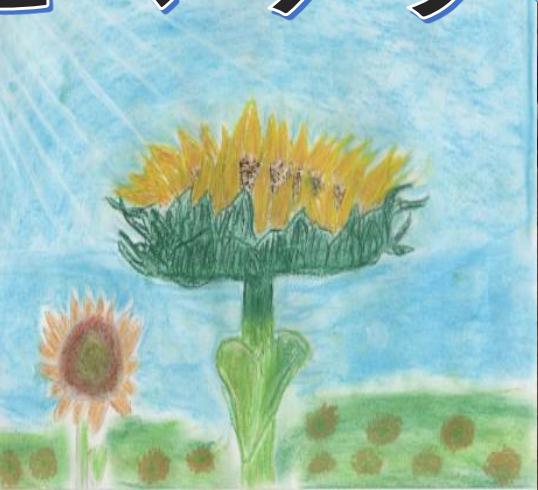
「清瀬学」⑤ 自然を体感しながら学ぶ







ヒマワリの種まき



「清瀬学」⑥ 歴史と伝統を体験を通して学ぶ

下宿ばやし(清明小4年生が全員体験)



博物館で学ぶ

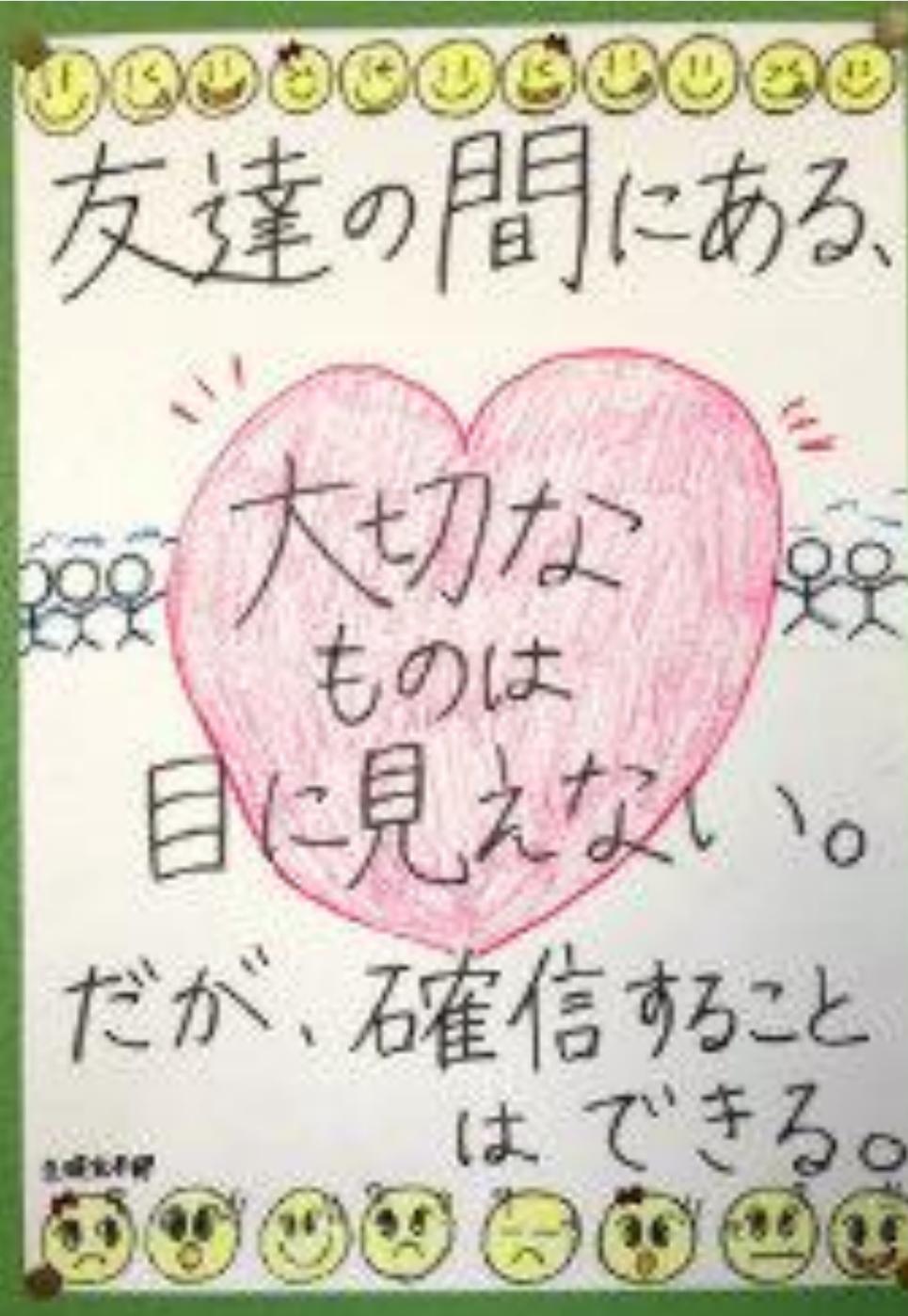


「清瀬学」⑦ 学校支援本部を通して地域人材から学ぶ



清瀬の子供たちは確かに育っています





より一層

清瀬を知り

清瀬を愛し

清瀬を誇りとし

清瀬を背負って立つ

子供たちを育てるにはどうしたらよいか

市長部局と教育委員とが共に考え

協働しながら実行していく清瀬でありたい

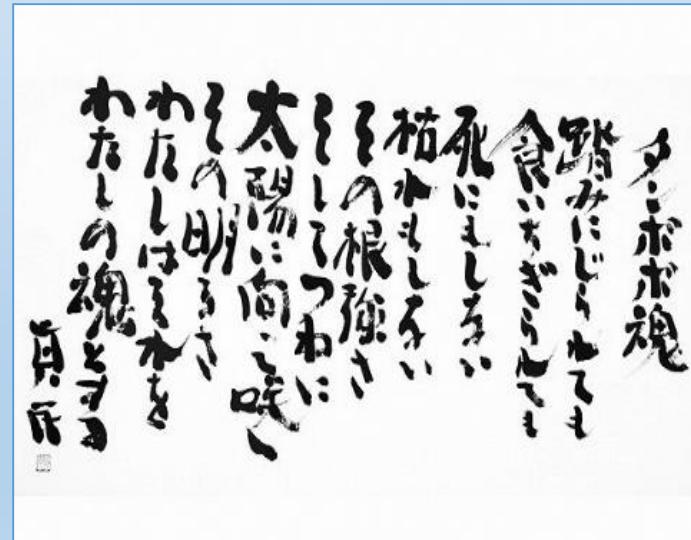
本日の総合教育会議の論点

論点1 「ローカル教育 清瀬学」の必要性について

論点2 「清瀬学」で取り上げるべき学習材について

論点3 「清瀬学」の充実を図るための方策

- * 道徳資料の一層の開発など、道徳教育の充実策
 - * 「清瀬学交流会」等学びの共有への取り組み
 - * 博物館と学校教育との協働の在り方
 - * 「清瀬学」と共に育むべき「母校愛」について
～富士見幼稚園の「タンポポ魂」から学ぶ～
 - * その他（新規採用教員に対する市長講話の実施）



協議の内容や結論は

教育委員会HP内の

会議録をご覧ください



教育委員会HP
QRコード